

CLINICAL CONFERENCE

症例から学ぶ 上部消化器疾患

連載

第28回

短期間に形態変化を示した若年者胃癌の1例

中村 純* 末廣満彦* 春間 賢* 谷川朋弘* 浦田矩代* 笹井貴子*
河本博文* 小林直哉** 松原正樹*** 山辻知樹*** 猶本良夫***
物部泰昌****

川崎医科大学総合医療センター総合内科学2*

岡山西大寺病院**

川崎医科大学総合医療センター外科***

同 病理学****

1. はじめに

ヘリコバクター・ピロリ（以下ピロリ）感染率の低下など、社会環境因子の変化とともに¹⁾、胃癌は罹患率、死亡率とも低下し、特に若年者でその傾向が強い。最近の、がん情報センターからの報告では、2016年の30歳未満の胃癌による死亡者数は48名と報告されている²⁾。しかしながら、若年者においてもピロリ感染は胃癌と強い関連があり³⁾、死亡率が低下しているとはいえ、若年者の社会生産性を考えると、できる限り若年者胃癌による死亡は避けなければならない。

今回、短期間に形態変化を示した20歳台の若年者胃癌症例を経験したので、若干の考察を加えて報告する。ピロリ感染率の低下とともに、消化性潰瘍や胃癌などの胃十二指腸疾患の頻度が低下している状況下で、本症例はきわめて意義があると考えられる。